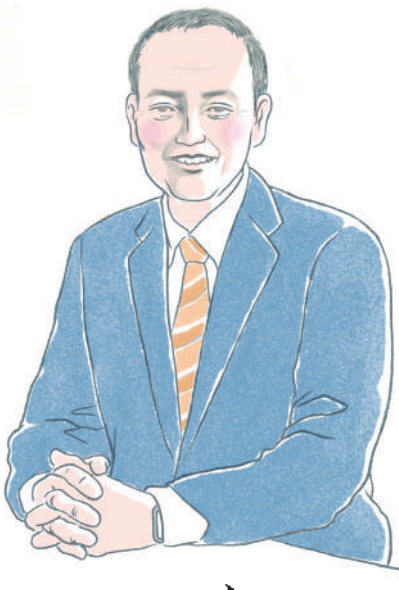
奈義町まちづくり総合計画

奈義町まち・ひと・しごと創生総合戦略

概要版

まちへの想い
～私たちが、未来に残せるもの～



奈義町長　奥 正親

　私たちが暮らしている今の奈義町の姿は、これまで先人など沢山の人たちが町の明るい将来を思い、力を合わせて脈々と築いてきたものです。
　これから10年後の未来を少しだけ想像してみてください。
　皆さんの家族、住んでいる地域、奈義町はどのようになっていて、どんな暮らしをしているのでしょうか。
　今、奈義町の抱える最大の課題は、“人口減少”です。
　人口減少は、町の基礎を揺るがす深刻な課題です。
　この大きな課題を克服し、未来へ奈義町をつなげるため、チャレンジしなければなりません。
　若者が定住し、子どもが生まれ、高齢者がいつまでも元気に活躍するまち
そして
　若者が思いっきり挑戦し、それを応援できるまち
　魅力あふれる子育て、教育のできるまち
　年をとっても、病気になっても安心して暮らせるまち
　人が人を呼ぶ憧れのまち
　私たちは、そのような明るい未来のあるまちを次世代に引き継がなければなりません。
　美しい環境を守り、優しさと思いやりで、将来にわたり誰もが暮らし易いまちを次世代に引き継ぐ。
　そのためには、町民皆さんと心をつなぎ、町民参加のまちづくりが必要です。
　今を生きる私たちは、未来の創造者です。
　この奈義町で暮らすすべての人、そしてこれから生まれてくる子どもたちが、
　10年後も　20年後もその先も、幸せな笑顔で暮らしていけるように。
　奈義町の明るい未来を一緒に創っていきましょう。

1 SDGsとの連携

　SDGs（エス・ディー・ジーズ：Sustainable Development Goals）とは、持続可能な開発目標のことで、その基本理念として、貧困の撲滅をはじめ、世界中の「誰ひとり取り残されない」という、包摂的な世の中を作っていくことが重要であると示されています。これは、住民の福祉の増進を図ることを目的とする地方自治体にとって、目的を同じくするものです。こういったことから、本町では、本計画の各分野においてSDGsに関連する目標指標を掲げ、自治体レベルでSDGsの理念と目標を支えることとしました。

2 奈義町のタウンプライド

「わたしたちのまちが誇るもの」

タウンプライドとは**「まちが誇るもの」**。それはつまり**“まちづくりの哲学”であり、常に原点に立ち返る重要な指針**となるものです。

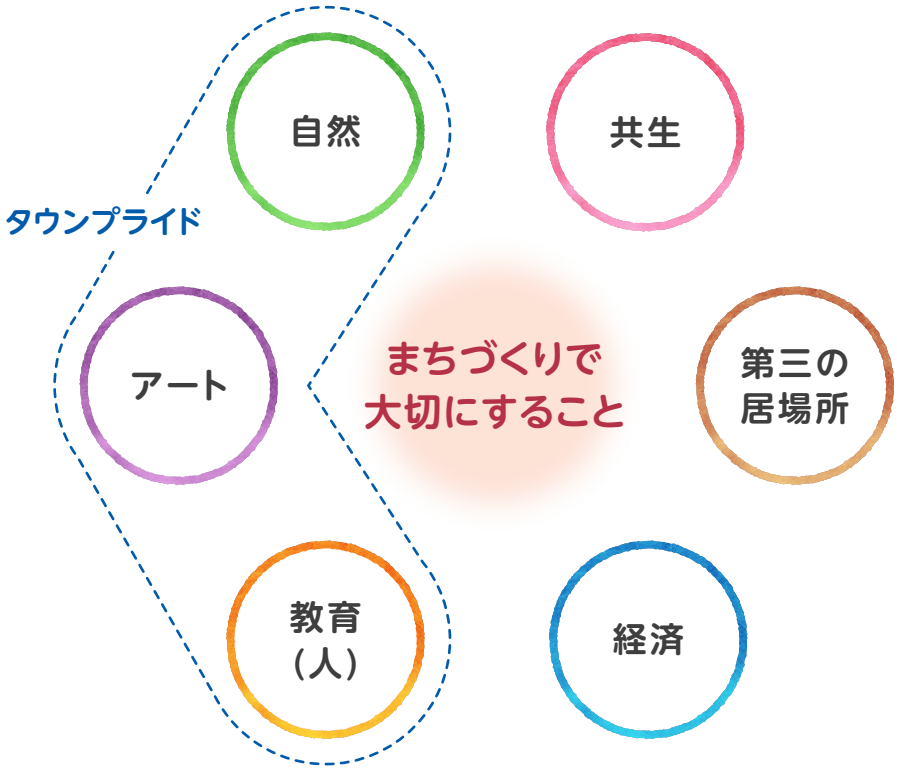
タウンプライド

人間らしさの源である豊かな	自　然
感覚を研ぎ澄ます	アート
新しいものを生み出す力のある	まちの人々

奈義のまちづくりの「６つの大切なこと」

みらいを、掘り起こせ

本町のタウンプライド「自然・アート・まちの人々」を基にまちづくりを進めるにあたって、さらに３つの大切なこと（共生・第三の居場所・経済）が浮かび上がってきました。本町が未来に向けて発展していくために必要なことであり、これからの社会で求められるものです。身近なところからまちを見つめ直し、「みらいを掘り起こす」起点となるものとして、これらを道すじにまちづくりを進めます。



自然

那岐山から学び、那岐山と暮らす

本町での暮らしは、自然と切り離すことはできません。わたしたちは、那岐山やため池を眺めて安らぎを感じ、また山から吹き下ろす広戸風に自然の厳しさを感じながら暮らしてきました。当たり前のように感じてきた自然は、実はまちの暮らしに大きな影響を与えています。この自然を奈義の特徴として改めてとらえ直し、そこからさらに多くを学び、より大きな安心感が得られるようなまちをめざします。

アート

創造力を刺激し、新しい価値観を育む

これまでも本町の暮らしは、横仙歌舞伎や現代美術館、文化センターでの活動など、新旧さまざまな芸術との接点にあふれていました。この環境が奈義の人々に、上質な感性やセンス、先進性や創造性をもたらしてくれました。これからは、よりいっそうアートの力をまちづくりの中核に据え、町民一人ひとりが芸術的な感性を持ったまちをめざします。そして都会の模倣ではない、独自の価値観や文化基準など新しい価値観を育みます。

教育

生み出す力を持った「人」を育てる

50年後の本町が「いつまでもここで暮らしたい」と思えるまちであるためには、地域全体で人を育てていくことが大切です。豊かな自然の中でのびのびと遊ぶことで、子どもたちは自分の手で何かを生み出すことを学びます。学校教育目標である「夢に向かって自ら学び共に高め合う奈義っ子の育成」は、主体性や意欲、自立性を育むと同時に、お互いを尊重しながら自己表現し、合意形成する力を伸ばします。それらにより、この奈義町を愛する心を育み、どんな社会でも生き抜く力、課題に協働する力を養うことができる教育のまちを実現します。

共生

それぞれができることをしながら互いに助け合う

共生とは、社会の中で自分の役割を担い、助け合いながら信頼を基盤とした対等な関係をつくることです。本町は、子どもも高齢者も、病気や障がいのある人も、子育て中のお父さんお母さんも、国内外からやってきた新しい町民も、性別に関わらず、誰もが社会から隔てられることのないまちをめざします。すべての人が居場所と出番を待ち、それを互いに楽しみ、喜び合うまちを創ります。

第三の居場所

家でも職場でもない、とびきり居心地がよい出会いの場

これからの奈義町には、町内外の人がもっと気楽に集まり、交流するための場所が生まれます。そこは、訪れた人々が、さまざまな奈義らしさを感じながら、集い、交わり、発見し、くつろぎ、創造する場所、また自分自身を見つめ直す場所でもあります。親しい人と語り合ったり、一人で静かな時を過ごしたり、誰がいつ訪れても、自分なりの心地のよい時間と出会える。そんな場所をまちにつくります。

経済

自分の力で、自分の人生を生きていく

お金を稼ぐことは人生の目的ではありませんが、お金を媒体とした経済活動は、重要な社会の基盤です。人生の夢を実現するためには、まずは自分の暮らしを立てることが必要です。本町は、一人ひとりの挑戦を積極的に応援します。挑戦が人の交流を生み出し、交流から新たなイノベーションが生まれ、さらに多くの人が自分の力で人生を切り拓くことができます。将来にわたって経済に活気と賑わいのあるまちづくりを進めます。

3 人口の将来展望

(1) めざすべき将来の方向

人口減少問題は、地域社会や経済に大きな影響を与える深刻な問題であり、町の最重要課題となっています。

そのため、「奈義町まちづくり総合計画」及び「奈義町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を町民と行政が一丸となって確実に実行し、「町民が暮らし易く、永続できるまちづくり」を進める必要があります。

人口減少問題を克服するため、「しごと」と「ひと」の好循環、そして、それを支える「まち」の活性化をめざします。

基本目標

基本目標 1

「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」

➡ 2024年度までの合計特殊出生率2.30以上の維持

基本目標 2

「稼ぐ地域づくりを進め、安心して働けるようにする」

➡ 2024年度までの新規創業者数と事業承継者数の合計15件以上

基本目標 3

「つながりを築き、新しいひとの流れをつくる」

➡ 2024年度のまでのトータル人口維持

基本目標 4

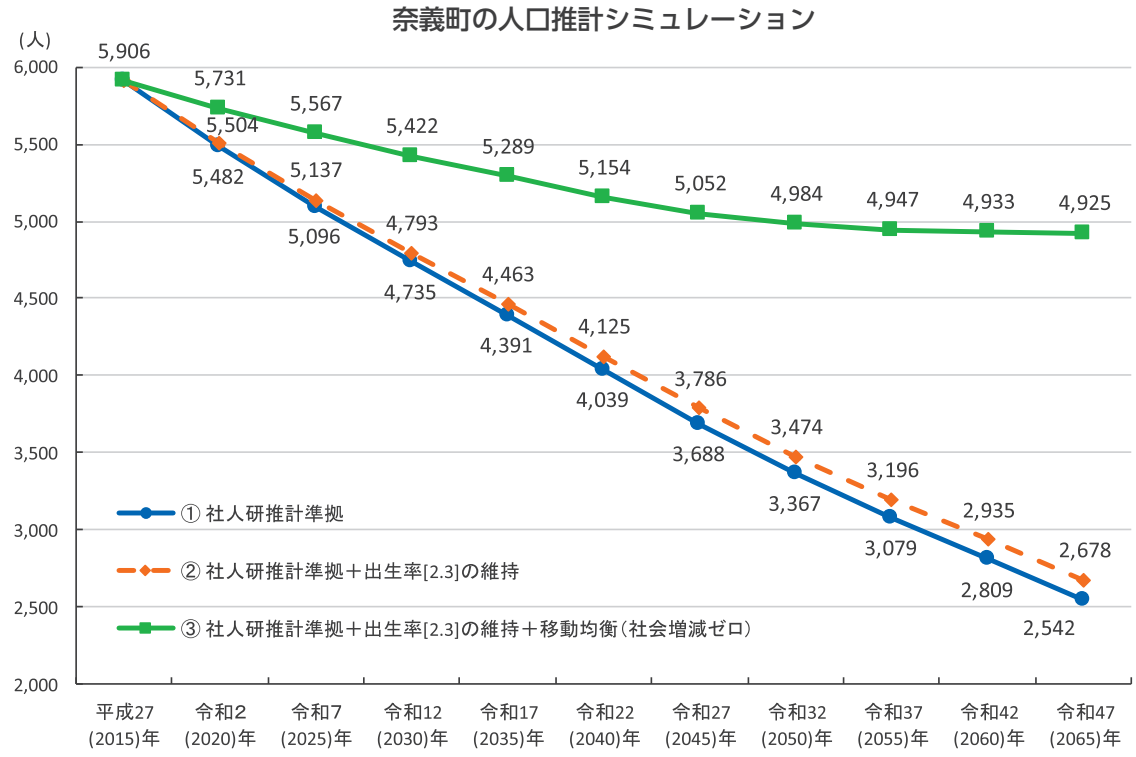
「ひとが集い、豊かで安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる」

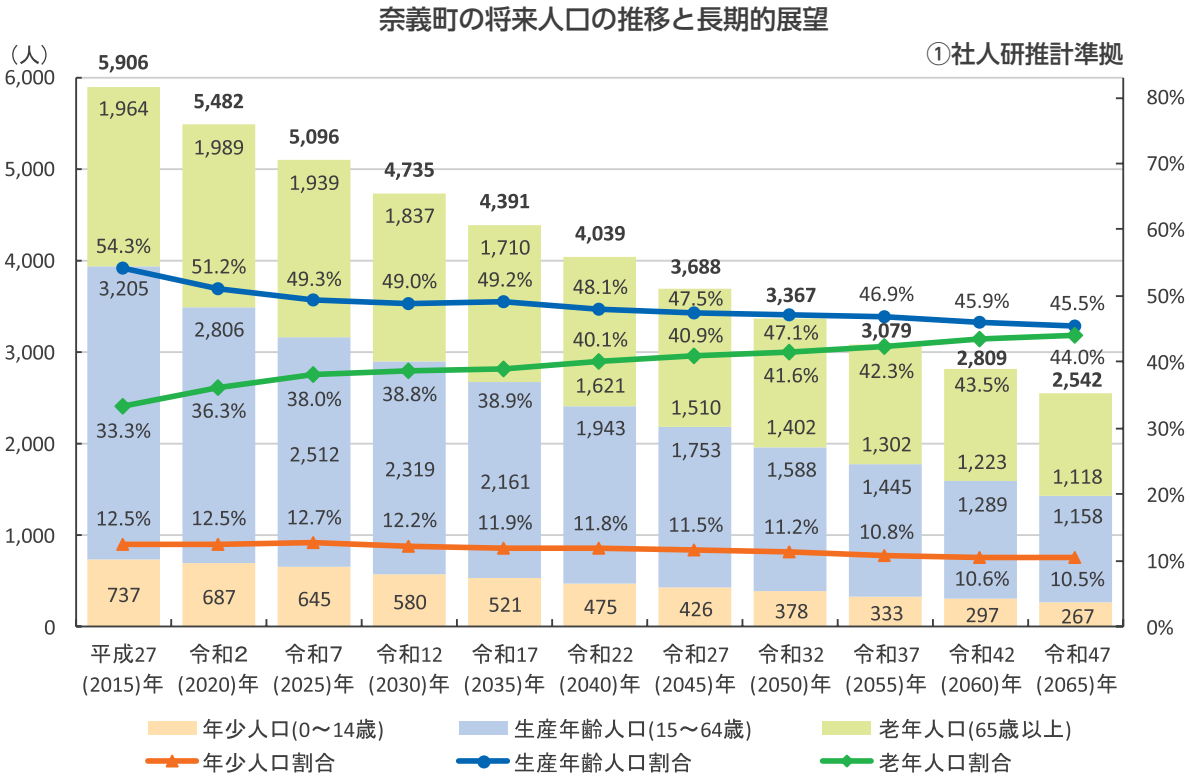
➡ 2024年度の住民まんぞく量　72.0ポイント以上

(2) 人口の将来予測

国の長期ビジョン及び本町の人口に関する推計や分析、調査などを考慮し、本町の将来の人口規模を予測します。

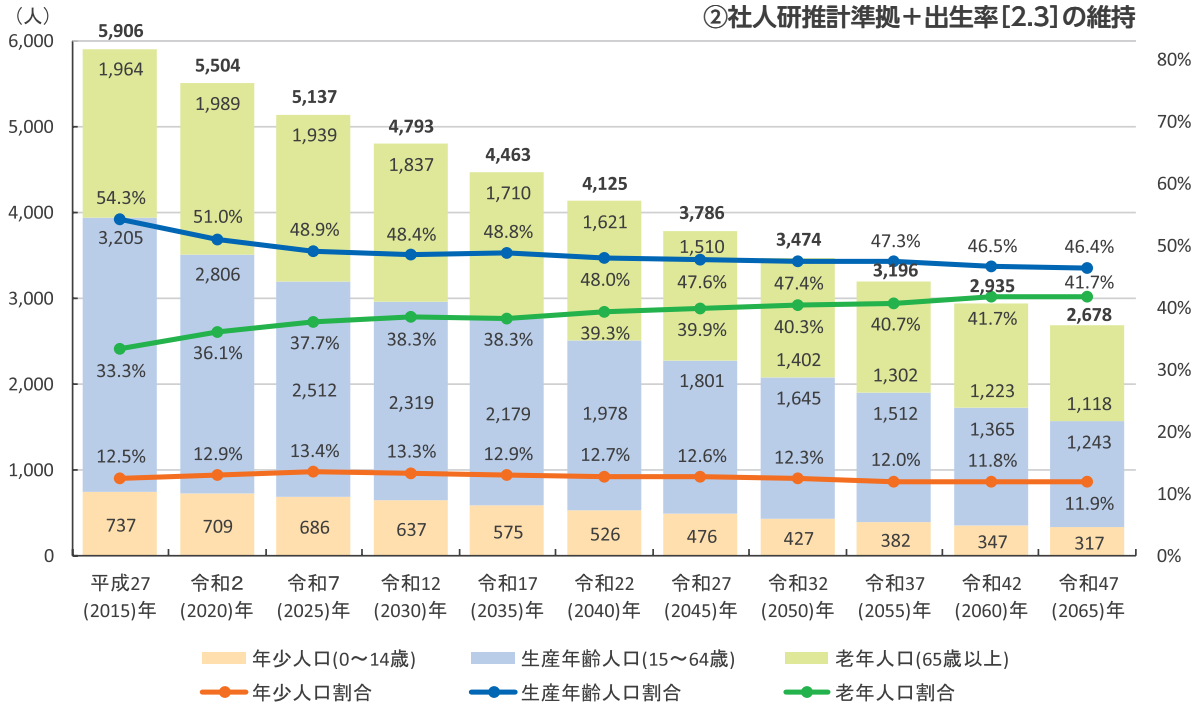
予測によると、令和22（2040）年では、5,100人程度、令和42（2060）年では、4,900人程度となっています。





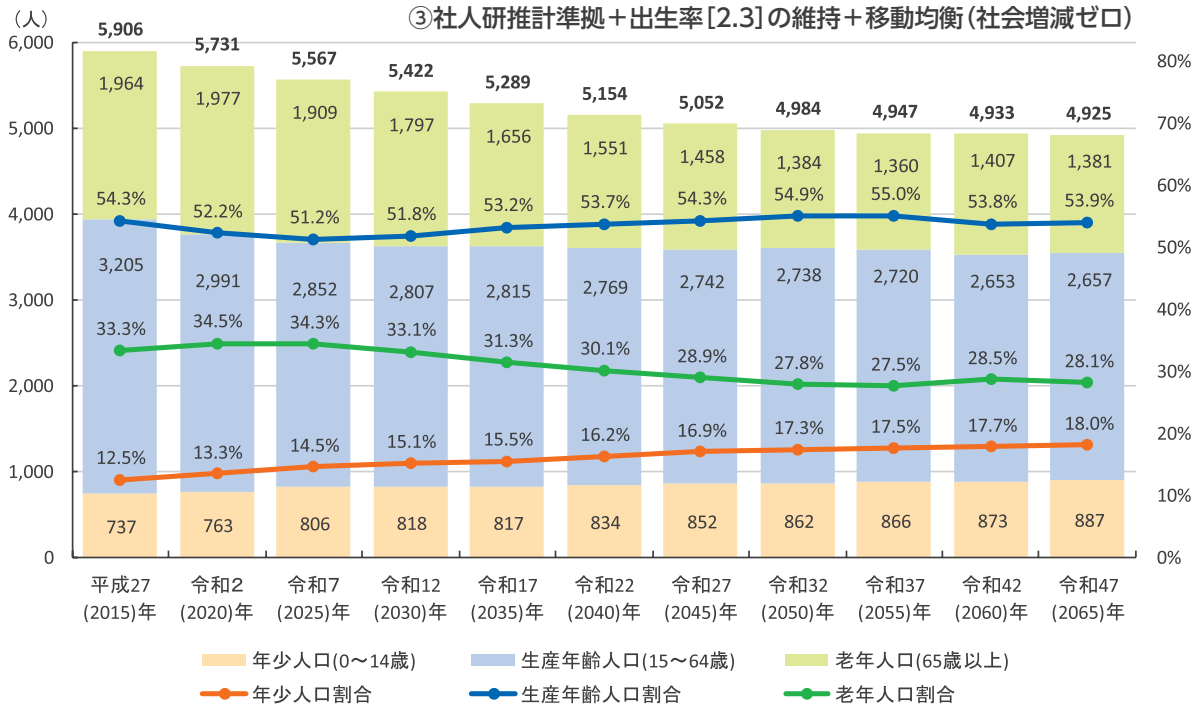
奈義町の将来人口の推移と長期的展望

②社人研推計準拠＋出生率[2.3]の維持



奈義町の将来人口の推移と長期的展望

③社人研推計準拠＋出生率[2.3]の維持＋移動均衡（社会増減ゼロ）



平成27（2015）年は実績値。総数に年齢不詳を含まず
資料：国配布ワークシート

4 地方創生における人口ビジョン

わが国では、地方から人口が流出し続けており、その結果、地方の経済的・社会的な基盤が失われ、地域の持続性が問われるようになっています。

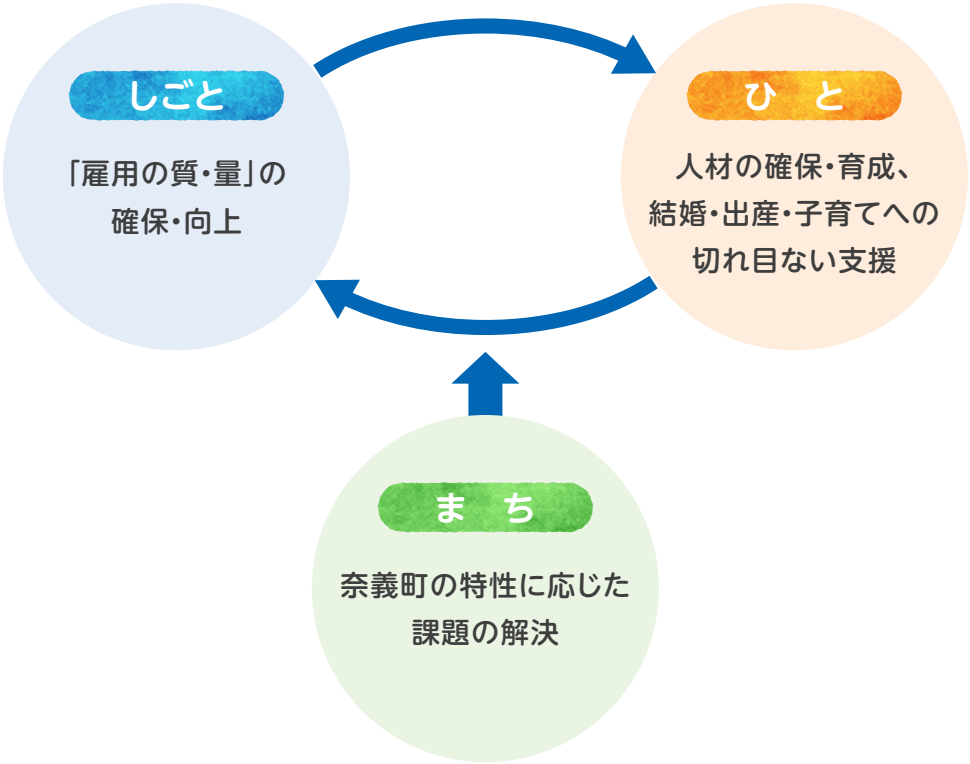
こうしたわが国の現状を鑑み、本町が目指す将来の人口ビジョンは、人口を維持するための施策を推進し、人口減少と地域経済縮小の克服、「しごと」と「ひと」の好循環とそれを支える「まち」の活性化の確立を目指していきます。

人口構造の転換には長い年月と長期的な視野が必要です。これまでの子育て支援や高齢者への支援等による暮らしやすいまちづくりに向けた取組みを継続し、高い出生率を維持するとともに、町外からの移住者等を増加させ、人口が安定して推移する構造にしていかなければなりません。

特に、今後数十年間の出生数を決める若年層の人口が減少し続けることになれば、将来の人口減少を止めることは困難になります。そのためにも、地域の活力を向上させ、若い世代が集まり、安心して働き、希望どおり結婚し、子どもを生み育てることのできる地域社会を実現し、本町の将来を担う人材を呼び込み、また、流出させない取組みも必要です。

また、10代後半～20代の年齢層で人口流出が多くなっている本町の現状を改善し、若い世代の就労の希望を実現するための雇用環境の創出を図るとともに、安心して子育てができる環境も整え、若年層、子育て世代の社会増を図り、町全体での人口の維持を図るとともに、暮らしやすい魅力的な地域をつくることを目標として、行政と町民が一丸となって人口減少対策に取り組めるよう、各施策を推進していきます。

「しごと」と「ひと」の好循環、それを支える「まち」の活性化



5 施策の大綱

基本目標 1　若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

我が国では、出生数の減少や出生率の低下に伴い急速な少子化が進んでいると共に、家族構成の変化や地域のつながりの希薄化によって、子育てへの経済的・将来的な不安感や孤立感を抱いている家庭が多くなってきています。また、働き方改革の推進や令和元（2019）年10月から幼児教育・保育の無償化が始まるなど、子ども・子育てを取り巻く環境はさらに変化してきています。

このような状況を踏まえ、本町においても、少子化・国際化への対応や女性の社会進出に伴う低年齢児からの保育需要の高まり、子育てに寄り添う教育・保育事業の量と質及び子育て支援施策の充実をめざして行く必要があります。

そのため、若者が結婚し出産したいと思えるような環境、安心して子どもを産み育てることのできる環境、そして、地域社会全体で子どもの成長を支え合う環境の整備を図ることが必要であり、子育て世代の経済的負担軽減や子育て環境の充実など、柔軟にニーズに合った対応を行い、多方面から「子育て応援宣言のまち」としての取組を積極的に実践していきます。

更に、学校・地域・家庭・行政が連携して、家族愛と郷土愛を育み、個性や創造力を十分に伸ばせるような奈義町ならではの特色ある教育、保・幼・小・中の一貫した教育を推進していきます。

KPI1：令和6（2024）年度までの合計特殊出生率2.30以上の維持

■ SDGsに連携する分野

■ この分野の施策及び重点プロジェクト

- 施策 1　結婚や出産、子育ての支援
- 施策 2　魅力ある教育の充実
- 施策 3　学び続けられる場の提供
- 重点プロジェクト　若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

重点プロジェクト

若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

重点プロジェクト１　結婚や出産、子育ての支援

		重要業績評価指標（KPI）
男女の出会いが生まれ、結婚したくなるまち	・ターゲットを定めた（趣味別、世代別、職業別、家庭環境別など）男女の出会いの場の提供 ・未婚者（若者など）が自身の将来を描ける取組み（自分の未来予想図作成など） ・ひとり親家庭の出会いの場の提供とサポート ・広域的な連携による出会い・結婚のサポート ・結婚相談窓口の設置 ・町民おせっかいサポーターの養成 ・公共施設（美術館、山の駅、ナギテラスなど）でのウエディングパーティーの利用 ・民間企業と連携した若者向け住宅や空家等の整備	**①KPI：NO.93** **育児・教育の相談や支援を、必要に応じて受けることができる** **（評価点）** **令和元（2019）年度：71.7** **令和６（2024）年度：74.7**
安心して出産できるまち	・きずなメール制度等の充実による妊産婦の精神的なフォロー ・産科医や助産師と連携した緊急時の相談体制の充実 ・妊婦検診時（臨月期）の通院にかかる交通支援 ・町民や先輩ママさん主体の自主保育や一時預かり制度の充実 ・不妊・不育治療への精神的（相談、話合いのできる場など）・経済的支援	
安心して子育てできるまち	・「子育て応援宣言のまち」の広報プロモーションの充実 ・小児医療体制の充実（かかりつけ医制度、病児保育、発育相談など） ・子育て世帯の経済的負担の軽減（在宅育児支援金の拡充、多子世帯の負担軽減、親の医療費負担の軽減、奨学金制度の拡充、就学助成金の拡充など） ・子ども記念日への贈り物（お米、農畜産物、記念写真、及び民間企業との連携など） ・発達障がい児への支援の充実（異年齢・地域・多世代交流や見守りなど） ・幼少期からの異年齢・多世代交流と食育の推進 ・地域の中で子ども達が見守られ健やかに育つ仕組みづくり ・３世代同居の推進と子育てを家族や地域で支え合う機運の継続的な醸成 ・民間企業と連携した子育てしやすいまちの創出 ・子育てヘルパー制度導入に向けた検討 ・預かり育児支援の充実や環境整備（病児病後児、延長保育、保育環境の整備、児童クラブなど） ・チャイルドホームの機能拡充及びニーズに応じた環境整備 ・プレイパークや遊具の充実等、青空の下で奈義の自然を体感し、伸び伸びと遊びこむことができる場の整備	

重点プロジェクト２　魅力ある教育の充実

重要業績評価指標(KPI)

将来の奈義町を担う人材の育成	・本町ならではの特色ある教育の充実（歌舞伎、アート、コミュニケーション教育、奈義学など） ・ICT（タブレット、デジタル教材、プログラミング、スカイプなど）を活用した教育の実践に向けた環境整備と活用 ・都市部に負けない確かな学力の向上対策 ・都市部や私立にも負けない時代に即した学校備品の充実 ・誰も取り残さないきめ細やかな補充学習 ・大学、高校等と連携した教育の実践 ・自分の力で生きていけるものづくり（クリエイター）人材の育成 ・この町で「本物」に触れあう機会と場の提供 ・安全で便利な通学課題への対応	**②KPI：NO.99** **子どもの社会性や生き抜く力が育っている** **（評価点）** **令和元（2019）年度：66.7** **令和６（2024）年度：71.7**
まちを知り郷土愛を醸成する教育の実践	・小中高生等による地域資源（那岐登山、自衛隊体験入隊、野外キャンプ、保育支援、スマート農業体験など）を活用した教育 ・中高生が地域やまちとつながり続ける仕組みづくり（イベントへの出店、中学校を会場としたイベントの開催、地域行事への積極的な参加促進、地域からの声かけなど） ・なぎビーフやおかやま黒豚、アスパラガス、白ネギ等、特産品の給食活用など食育による郷土愛の醸成と学校等給食費の無料化の取組み ・家庭内教育の充実に向けた意識醸成（学習指導、地域教育、地域交流、多世代交流などへの参画） ・まちを学び、まちを愛し、まちを発信できる人材の育成	

重点プロジェクト３　学び続けられる場の提供

重要業績評価指標(KPI)

学び続けられる場の提供	・中学生と高校生が交流できるような場づくり（スポーツ、学び、音楽など） ・若者や子育て世代が参加するサークル活動の仕組みづくり ・高齢男性をターゲットとした交流や生涯学習の場づくりの実施 ・移住者による新たな学びの場や生涯学習の場（コミュニティ）づくりの推進 ・学び続ける場の継続的な創出のための指導者や起業者の育成 ・町民一人ひとりの特技を生かした町民先生など生涯学習の推進 ・生涯学習やスポーツ、ボランティア活動などに参加したくなるような仕組みやグループづくり ・生涯スポーツ活動の推進と町民の自発的活動の支援 ・生涯学習と学び、多世代交流ができる場の整備 ・図書館の新たな使い方による親しみと魅力の向上 ・タウンプライドに基づく、職場でも学校でも家庭でもない第３の居場所（サードプレイス）の整備	**③KPI：NO.15** **文化活動や講座などに参加しやすい** **（評価点）** **令和元（2019）年度：64.0** **令和６（2024）年度：69.0**

基本目標 2　稼ぐ地域づくりを進め、安心して働けるようにする

次世代に本町を継承していくためには、活力ある経済を維持し、持続的に発展していく必要があります。しかし、本町の基幹産業である農林畜産業においては、後継者不足や従事者の高齢化、日米貿易協定やTPP（環太平洋パートナーシップ）への参加による木材・農畜産物の価格の下落への懸念、粗飼料の高騰、設備投資による経営圧迫など、農林畜産業の経営存続につながる懸案事項が山積しています。また、商工業においても、長引く地域経済の低迷や消費人口の減少、生産人口の流出による労働力の低下などにより、継続的な経営を行うことが難しい状況にあります。

そのため、有機堆肥の活用による耕畜連携や農業と観光の連携による６次産業化の推進、農業経営体の拡大、農福連携の推進、交流人口の増加と販売の強化などを図り、基幹産業である「農林畜産業」の再興を図る必要があります。

さらに、新規就農者の誘致や担い手の育成による後継者の確保、木材・農畜産物の高付加価値化を進め、併せて、既存商店や中小企業の活力維持と継続を図るため、経営改善や経営革新、事業承継や起業に対する相談や支援、町内商店の利用促進等に向けた取組みを行い、活力ある経済を維持していきます。

また、町外からのお金、いわゆる外貨を稼いで町内・地域で循環させる経済の確立、観光や福祉、小商い、ものづくりなど新しい価値観による産業の創出を進めるとともに、次世代を担う子どもたちには、新しい価値観を創造する教育などに挑戦していきます。

KPI2：令和６(2024)年度までの新規創業者数と事業承継者数の合計15件以上

■ SDGsに連携する分野

■ この分野の施策及び重点プロジェクト

施策４　ずっと続けられる農林畜産業

施策５　活力ある商工・サービス業

重点プロジェクト　稼ぐ地域づくりを進め、安心して働けるようにする

重点プロジェクト

稼ぐ地域づくりを進め、安心して働けるようにする

重点プロジェクト４　ずっと続けられる農林畜産業

		重要業績評価指標(KPI)
人材の育成と確保	・新規就農者の誘致や農業従事者の確保 ・畜産業・林業従事者の確保と育成 ・農林業体験等の積極的な受入れ ・農業法人・大規模農家による後継者育成支援 ・魅力的な経営者の発掘・育成 ・女性や高齢者、障がいのある人が就農できる仕組みの構築	④KPI：NO.50 農家の後継ぎが確保されている（評価点） 令和元（2019）年度：49.6 令和６（2024）年度：54.6
経営支援体制の強化	・経営分析による経営課題の明確化 ・生産から販売までの一体化 ・Society5.0実現に向けたスマート農業・林業の検討と実証 ・第３セクター方式による農業法人の設立（企業化） ・国内外対応の価格・品質で差別可能な大規模生産・供給体制の構築	
産品の高付加価値化	・高品質高付加価値な農産物づくり ・儲かる畜産品（加工品を含む）の開発と展開 ・既存特産品目の積極的なPR（なぎビーフ、おかやま黒豚、里芋、黒大豆） ・新たな特産品の研究・開発 ・作り手や地域のブランド化による知名度の向上 ・林業を核とした新たな産業の創出（バイオマス事業等） ・オーガニック栽培への取組み	
流通・販売体制の強化	・マーケティングによる戦略的販売の実践 ・農家民泊・体験型農業による顧客の獲得 ・景観や町内飲食店との連携 ・販売・加工業者との連携誘致 ・民間企業や地域商社等と連携した新しい流通体制の構築 ・首都圏や関西圏などを睨んだ販路開拓 ・ニーズに応じた安定的な供給体制の確立 ・商談会や展示会などへの積極的な参加 ・なぎビーフなど畜産物の海外輸出振興と事業者育成 ・農業と観光の連携によるPRと消費拡大（花、ハーブなどを活用した誘客促進）	

生き残る農業	・農業生産基盤の維持や農地の適正な保全 ・農地、農機具の効率的使用 ・鳥獣害防止対策の強化 ・農地保全に向けた兼業農家の確保 ・地産地消・地産地売の拡大 ・農業法人の後継者確保 ・直売所の活性化など町内の販売体制の強化 ・特色ある農業の展開（耕畜連携、有機堆肥による有機栽培など） ・特産品の復活（ワサビ、タケノコなど） ・企業等の農業参入の促進	**④KPI：NO.50** **農家の後継ぎが確保されている** **（評価点）** **令和元（2019）** **年度：49.6** **令和６（2024）** **年度：54.6**
６次産業化の推進	・町内企業等との連携による農産物加工、販売の促進 ・売れる商品開発やリサーチ（調査）に対する支援 ・個人の６次産業事業者の育成と支援（パイロットキッチンの有効活用、施設設備費に対する支援など） ・隣接地域（津山圏域）と連携した６次産品の販売	

重点プロジェクト５　活力ある商工・サービス業

		重要業績評価指標（KPI）
若者・ベンチャー企業などの誘致促進	・若者が魅力を感じ働きたくなるような企業の誘致・立地活動 ・遊休地などへの企業誘致・立地活動 ・本社や支店機能の移転のための誘致活動 ・ベンチャー企業等の優遇・支援の実施 ・誘致企業のための空家・既存施設の活用 ・企業や地域のニーズに合わせた優遇・支援策の実施 ・若者、ベンチャー企業が参入しやすい地域づくり	**⑤KPI：NO.76** **経済活動が活発である** **（評価点）** **令和元（2019）** **年度：55.8** **令和６（2024）** **年度：60.8**
事業所・起業者等への支援	・やる気ある事業者、後継者の支援・発掘 ・新規創業者の発掘や育成、相談体制の充実 ・コミュニティビジネス等の育成支援 ・起業者等に対する施設・設備等の支援（貸工場・貸事務所・シェアオフィス・サテライトオフィスなど） ・誘致起業者に対する経済的支援や経営指導 ・起業支援事業交付金制度の活用 ・町内商店等の利用促進や店舗数の維持 ・ナギフトカードの利用促進 ・町内商店及び事業所間の共同活動支援 ・民間企業等の外国人人材の受入れに対する支援 ・地域住民の工業団地内企業の認知度向上と就労者確保に向けたイベント（オープンファクトリーなど）の開催 ・経営改善や事業再生、事業承継のための支援 ・新たな分野（買い物弱者対策など）への展開や経営革新に対する支援	
隠れた人材の発掘・支援	・Iターン・Uターン希望者の積極的探索・就労支援 ・休眠労働者（保育士・看護師等の有資格者）の発掘・支援 ・子育てママや高齢者が働きやすい環境の整備・就労支援 ・高齢者や障がい者が安心して、活躍できる環境の整備 ・ワークシェアリングやテレワークなどの導入による、子育てママや高齢者などの多様な働き方の推進と民間企業の人手不足解消	

基本目標 3　つながりを築き、新しいひとの流れをつくる

本町には、優れた自然資源や社会資源、観光資源が数多くあります。これらの情報を広く発信して、まちの知名度を高めていくとともに、関係人口・交流人口の増加、そして移住・定住の促進に努めていきます。

また、江戸時代から受け継がれてきた農村歌舞伎の姿を現代に伝える「横仙歌舞伎」、体感型美術館の先駆けとして国際的にも評価され、建築と芸術を融合させた独特の世界観で人々を魅了し続ける「現代美術館」など、自然・文化・芸術が融合した町でもあります。これらの活動を深化させ、まちの魅力を高めていきます。

さらに、美しい自然と伝統文化を有し、それらに町民の日々の営みが積み重ねられ、「美しさ」・「やすらぎ」・「ゆとり」といった心象を投影する町固有の環境・景観をつくり出してきました。自然と伝統文化に裏打ちされた奈義町らしい質の高い自然環境と良好な景観は、町に暮らす人々に快適さや、安全安心やゆとりといった質的な豊かさをもたらし、町を訪れる人々を魅了して、心を惹きつけるという好循環を生み出しています。この素晴らしい景観を次世代に引き継いでいく責務があります。

観光から交流を通じて、来町者に本町の魅力を伝え、移住・定住に結び付けていくことが重要です。そのため、観光ニーズを的確に捉えて、地域の稼ぐ力を引き出すとともに、地域への誇りと愛着を醸成し、自然、食、芸術文化、農畜産物など本町ならではの地域資源を活用しながら、様々な団体や農業者などと連携して賑わいのあるまちづくりを進める観光地域づくり法人（(一社)ビジット奈義）による戦略的観光を実践していきます。併せて、近隣自治体等と連携して広域的な観光ルートの開発を行うとともに、観光関連産業をつくり出し、雇用を増やして、人が行き交うまちをめざします。地域交通については、抜本的に今後のあり方について行政・事業者・地域住民等が協議・検討を進め、地域住民の支え合いによる交通確保や広域的な公共交通についての対策を図ります。

KPI3：令和6(2024)年度までのトータル人口維持

■ SDGsに連携する分野

■ この分野の施策及び重点プロジェクト

- 施策６　誇れるまちの情報発信と地域情報化
- 施策７　移住・定住の促進と支援
- 施策８　創造と芸術性の高いまちの深化
- 施策９　歴史的資源の保存・継承・活用
- 施策10　環境と景観に配慮した社会づくり
- 施策11　戦略的な観光・交流
- 施策12　生活インフラの整備と管理
- 重点プロジェクト　つながりを築き、新しいひとの流れをつくる

重点プロジェクト

つながりを築き、新しいひとの流れをつくる

重点プロジェクト６　誇れるまちの情報発信と地域情報化

		重要業績評価指標（KPI）
ターゲットを定めた戦略的な情報発信	・町民総参加のためのインナープロモーションの充実強化 ・情報発信の効果検証の実施 ・5Gやsociety5.0の活用に向けた取組みの検討	⑥KPI：NO.21 町の情報や手続きが、手に入りやすく、分かりやすい （評価点） 令和元（2019） 年度：66.7 令和６（2024） 年度：71.7
関係人口や移住・定住者獲得のための新たな情報発信の検討	・町民自身（奈義町応援団）によるプロモーションの推進 ・メディアやSNS、HP等の積極的な活用	
利便性の向上と協働による取組み	・行政手続きの電子化の推進 ・町民による広報紙の作成	

重点プロジェクト７　移住・定住の促進と支援

		重要業績評価指標（KPI）
移住・定住の促進	・きめ細やかな移住相談体制の整備（相談窓口の充実、ワンストップ化など） ・IJUターン希望者の積極的な探索と就労支援 ・多様なニーズに応じた移住の促進（二地域移住、季節別移住、週末移住、教育移住など） ・スムーズな移住受入れ体制の構築（移住体験、町内案内、各種手続き相談、地域・行政・その他必要機関との連携など） ・民間事業者と連携した分譲地や賃貸住宅等の整備 ・空家等の継続的な実態把握と地域との連携による空家・空地活用 ・老朽空家の寄付受け、更地化による景観向上と住宅地や第３の居場所等への活用 ・空家流動化の促進と戦略やニーズに応じた助成制度の創設 ・Ｕターン者受け入れのための住宅改修費等の支援 ・空家活用モデル事業の推進 ・お試し住宅等の整備によるプチ移住者の獲得 ・二極地生活、週末生活等、奈義町ファンづくりと関係人口者の滞在の場の確保 ・町民の移住促進活動への主体的参画 ・外部人材の積極的な活用（民間企業との連携、アドバイザーの任命、地域おこし協力隊など） ・移住後のサポートの強化（地域へのとけこみ、移住者交流会、生活相談など） ・全世代全員活躍型「生涯総活躍のまち」の実現	⑦KPI：NO.23 住みやすいまちである （評価点） 令和元（2019） 年度：77.5 令和６（2024） 年度：80.5

交流の促進	・他県自治体や海外等との連携による新たな交流（教育、文化、農泊、留学、ホームステイなど） ・民間企業との交流や連携（保養、農業体験、アート体験、民間資金等の活用など） ・海外企業等の視察研修受入れによる体験事業（生涯学習・伝統文化など）と国際交流、まちのブランド力向上への発展 ・住民ニーズに基づく多様な交流の支援	**⑦KPI：NO.23** **住みやすいまちである** **（評価点）** **令和元（2019）年度：77.5** **令和６（2024）年度：80.5**

重点プロジェクト８　創造と芸術性の高いまちの深化

重要業績評価指標（KPI）

現代美術や芸術などへの町民の積極的な関与による地域に根差した取組み	・アートをテーマとした回遊性向上の取組み ・アーティスト・イン・レジデンスやアーティストの育成に向けた取組みと支援の創出 ・ジャンルを超えたアーティストの連携によるまちの賑わい創出 ・町民へのこのまちで「本物」に出会える機会や場の提供	**⑧KPI：NO.69** **まちににぎわいがある** **（評価点）** **令和元（2019）年度：52.9** **令和６（2024）年度：57.9**
戦略的な情報発信による知名度の向上とインバウンドの獲得	・観光地域づくり法人（(一社)ビジット奈義）と連携したアート（現代美術館や横仙歌舞伎など）体験の創出 ・町の風土やイメージに合った、食文化の提供（カフェ、個性的専門店、ステーキハウス、ベーカリー、洋菓子店などの誘致や起業支援など）	

重点プロジェクト９　歴史的資源の保存・継承・活用

重要業績評価指標（KPI）

横仙歌舞伎の保存・継承・活用	・横仙歌舞伎の継承者の育成 ・学校教育等と連携した横仙歌舞伎の振興 ・町内での他団体公演（地歌舞伎サミットなど）や県外等での積極的な歌舞伎公演 ・観光地域づくり法人（(一社)ビジット奈義）と連携した横仙歌舞伎の戦略的プロモーションと集客による地域経済への波及 ・時代に即した新たな取組みへの検討	**⑨KPI：NO.31** **伝統文化や芸能が守られ、次代に引き継がれている** **（評価点）** **令和元（2019）年度：77.7** **令和６（2024）年度：80.7**
文化財や民話などの保存・継承・活用	・史跡や文化財、民話等の次世代への継承 ・観光的視点での天然記念物や文化財、民話等の活用 ・子どもから高齢者まで歴史的・文化的地域資源を学ぶ取組みの創出（なぎ検定など） ・地域文化（猪子、数珠回し、お大師講など）の継承 ・地域内での独自文化の継承に向けた取組みへの支援	

重点プロジェクト10　環境と景観に配慮した社会づくり

		重要業績評価指標(KPI)
環境と景観に配慮した社会づくり	・低炭素社会や省エネルギーの実現に向け、SDGsを基調とした施策の実行 ・SDGsの理念の基づく「エコタウン宣言」の実施 ・町民や事業者等と連携した３Ｒ（リデュース、リユース、リサイクル）への取組み ・課題解決やニーズに応じたゴミ収集・運搬への対応 ・地域資源の活用や町の暮らしにあった、環境にやさしいライフスタイルの提案と啓発 ・町民の環境保全意識の高揚を図るための取組み ・次世代に美しい町並みを残すための景観維持と創造 ・町独自の民族景観（コセや田園風景など）の保存と継承 ・景観や環境、芸術性の高いまちにふさわしい公共施設等（建築物・道路・ガードレール等）の整備 ・町民との協働による環境保全と景観向上に関する取組み（圃場、農道水路の維持管理、各家庭での景観向上、公的施設の色彩変更など） ・民間企業と連携した環境保全と景観向上の推進 ・景観阻害要因となる空家の処分や利活用	**⑩KPI：NO.39** **身近な景観が美しい** **（評価点）** **令和元（2019）** **年度：76.9** **令和６（2024）** **年度：79.9**

重点プロジェクト11　戦略的な観光・交流

		重要業績評価指標(KPI)
観光資源の掘り起こしと開発	・確かな根拠に基づいた「観光戦略」の策定による「奈義町版DMO」の推進 ・「地域ブランド」の確立と積極的な情報発信 ・企業や外部人材を活用した幅広い取組みの推進 ・魅力ある観光商品の開発（購買欲・食欲・知識欲・達成欲・独占欲など） ・マーケティング手法による新たなコンテンツづくり ・観光関連産業の創出や付加価値の向上 ・猪子、甘酒講などの隠れた観光資源の発掘 ・既存資源のブラッシュアップ（歌舞伎と現代劇とのコラボなど） ・地域資源を活用した地元住民主催の交流イベントの支援 ・個々の資源のマッチングによる新しい観光資源の開発（アートdeミートなど） ・年間を通して行える農家体験プランの開発	**⑪KPI：NO.46** **町が行うイベントは、気軽に参加しやすい** **（評価点）** **令和元（2019）** **年度：68.9** **令和６（2024）** **年度：71.9**
観光振興の体制整備	・空家を活用した民泊・交流施設の設置 ・町民総参加による「観光のまちづくり」活動の展開 ・体験プランを活用した伝統・文化の継承 ・観光客と町民の交流が生まれる場の創出	
現代美術館を核としたアート連携による観光の推進	・現代美術館と民間ギャラリー、横仙歌舞伎、ビカリアミュージアムなどの連携による回遊性の創出 ・トレッキングやサイクリングロード、ウォーキングロード等への野外美術展示の展開 ・広域連携による観光客の誘致 ・民間イベントの積極的な推進と支援 ・町内出身漫画家応援団の創設と漫画展への展開	

那岐山の自然の力を生かした観光の開発

・既存トレッキングコースの有効活用と登山道の整備
・トレイルランによる新たなファンづくりの創出
・登山客等の滞在時間の延長、町民との交流、利便性向上のための温泉又はシャワー施設等の整備
・那岐山麓を活用したサイクリングコース（山の駅～菩提寺～屋敷の滝）の検討とアート作品等の設置による誘引
・山の駅のリコンセプトによる改修（グランピング、アスレチック、シャワークライミングなど）と民間活力の導入
・森林を活用した観光･教育･健康づくり（森林サービス事業など）
・局地風「広戸風」の活用検討

地域食材による観光の開発

・農業体験ツアーの定期開催
・ワーキングホリデーの受入れによる関係人口の獲得
・特産品（なぎビーフ、黒豚、アスパラ、黒豆等）による飲食提供
・空家活用による、カフェ、宿泊、飲食施設等への取組み支援

観光プロモーションの強化

・効果的なＰＲ活動の展開
・ローカルメディア（テレビ局、新聞、地域雑誌）等の積極活用
・ロケ地誘致や町にゆかりのある観光の展開
・地域資源を活用したインバウンドの獲得

観光誘客促進のための環境整備や積極展開

・観光客の回遊性･利便性の向上とリピーターの獲得（交通など移動手段、宿泊、飲食など）
・特色ある観光資源の活用（那岐山、イチョウ、現代美術館、ビカリアミュージアム、自衛隊駐屯地での催しなど）
・ホームページやSNS強化など、ICTの積極活用
・観光ボランティアの育成など、おもてなし力の向上

⑪KPI：NO.46
町が行うイベントは、気軽に参加しやすい
（評価点）
令和元（2019）年度：68.9
令和６（2024）年度：71.9

重点プロジェクト12　生活インフラの整備と管理

重要業績評価指標(KPI)

生活インフラの整備と管理

・環境や景観を考慮した持続可能な生活インフラ（道路、上下水道、河川、水路、公園、ため池など）の整備、改修
・生涯総活躍のまちにふさわしいユニバーサルデザインに配慮した公的施設や道路、歩道等の整備、改修
・町民との協働による公共施設や地域の公共インフラの維持管理や景観向上への取組み
・美作岡山道路の北部延伸に対する要望活動

⑫KPI：NO.42
歩行者にやさしい道路になっている
（評価点）
令和元（2019）年度：64.8
令和６（2024）年度：69.8

基本目標 4　ひとが集い、豊かで安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる

我が国では、国土の地理的･地形的な特性と世界的な気候変動から数多くの大規模災害が発生しています。

本町においても、平成16（2004）年には、台風23号の影響により広戸風が発生し、暴風雨が一昼夜吹き続け、瞬間最大風速は51.8m/sを記録。町内全域に未曾有の被害をもたらし激甚災害指定を受けました。近年、地震やゲリラ豪雨などが全国各地で発生しています。いつどこで発生するか予測困難な災害に対応し尊い人命や財産を守るため、日頃から町民の防災意識を高めるとともに、自主防災組織の育成、防災資器材の整備、有事の際の必要な情報が的確に伝わるよう情報伝達機能の強化などを図り、誰もが安全で安心な暮らしが継続できるよう、環境づくりに努めていきます。

団塊の世代が65歳以上となり、急速に高齢化が進行しています。これまで町では、高齢者が尊厳をもって暮らせる社会の実現をめざし、地域包括ケア体制の構築等に向けた取組みを進めてきました。高齢化が進むなか、健康寿命が延びています。今は、人生100年時代となっています。本町がめざすまちは、年齢や性別、障がいや課題の有無などに関わらず、すべての町民や訪れた人が、健康で自分らしい豊かな暮らし、豊かな時間を過ごし、誰にも一人ひとりの役割があり、自分ができることで地域社会の一員として役に立ち、いつまでも優しさと思いやりで支え合うことができる社会です。住み慣れた家庭・地域で健康的に最期まで安心して暮らせるまちとして、町民・地域・行政が連携した「生涯総活躍のまち」の実現を図ります。

また、本町は、陸上自衛隊日本原駐屯地が創設されて以来、駐屯地と町の面積の５分の１を占める演習場を有している自衛隊との共存共栄を進める町です。日本原演習場の安定使用はもとより、自衛隊と地域住民との交流を一層進め、自衛隊員にとっても暮らしやすいまちづくりを進め、隊員の定住化を促進するとともに、地域の活性化を図っていきます。

今後も町民福祉の向上を図り、町民の満足量を向上させるため、事務事業の選択と集中、行財政改革の堅実な推進により、持続可能な行財政運営を図っていきます。

KPI4：令和６(2024)年度の住民まんぞく量72.0ポイント以上

■ SDGsに連携する分野

■ この分野の施策及び重点プロジェクト

- 施策13　人生100年時代の健康づくり
- 施策14　いつまでも元気で輝き続けられる高齢者
- 施策15　安全で安心なくらしの確保
- 施策16　一人ひとりを大切にする
- 施策17　課題を抱えるひとの支援
- 施策18　参画と協働、連携によるまちづくり
- 施策19　自衛隊との共存共栄
- 施策20　持続可能な行財政運営
- 重点プロジェクト　ひとが集い、豊かで安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる

重点プロジェクト

ひとが集い、豊かで安心して暮らすことができる魅力的なまちをつくる

重点プロジェクト13　人生100年時代の健康づくり

重要業績評価指標(KPI)

人生100年時代の健康づくり	・子育て世代や若年者からの健康づくりへの意識の醸成と具体的な取組み ・ウォーキングや水中歩行などに自発的に取り組む、健康づくり意識の醸成 ・全世代活躍のための「栄養」「運動」「休養」を中心とした生活習慣病予防 ・「減塩宣言」等、全世代が健康に配慮した食生活の推進 ・健康診査受診率向上に向けた啓発 ・遺伝子検査等、若年者から疾病予防に向けた取組みの支援 ・健康づくりを通じた仲間づくりの促進 ・健康づくり×多世代交流の場の整備（温泉、通年利用できるプール、地産地消食堂、カフェ、スポーツジムなどの複合施設） ・誰でもいつでも気軽にできるスポーツクラブの充実	**⑬KPI：NO.4** **体調が良く、健康的な生活を送れている** **（評価点）** **令和元（2019）年度：77.5** **令和６（2024）年度：80.5**

重点プロジェクト14　いつまでも元気で輝き続けられる高齢者

重要業績評価指標(KPI)

いつまでも元気で輝き続けられる高齢者	・人生100年時代を満喫するための継続的な健康づくりの推進 ・高齢者ができるちょっとした仕事（ワークシェアリング）の仕組み充実と活用促進 ・高齢者の娯楽と交流と生きがいづくりの場の整備 ・教育・生涯学習ボランティア等への積極参加の促進 ・地域文化の若者への継承 ・高齢者による観光ガイド ・地域での支え合いと見守り活動の取組み促進 ・住み慣れた地域で最期まで生活できる医療と介護の連携による地域包括ケアシステムの充実 ・高齢者がいつまでも買い物ができる仕組みづくり（買い物輸送サービス、移動販売、ドローン輸送など） ・官民と地域の連携による日常生活支援（食事、清掃、簡易修繕、理容）の充実 ・交通弱者のニーズに応じた便利で快適な新たな「交通」（Society5.0社会への対応）の検討と環境整備 ・地域公共交通の充実	**⑭KPI：No.26** **年をとっても生き生きと暮らしていける** **（評価点）** **令和元（2019）年度：65.7** **令和６（2024）年度：70.7**

重点プロジェクト15　安全で安心な暮らしの確保

安全で安心な暮らしの確保

- 持続可能な地域づくりへの支援
- 地域による次世代のリーダー育成の支援
- 中高大学生など若者と地域の交流及び地域活動の推進
- 地区間連携による持続可能な地域づくりと小さな拠点づくりの推進
- 歩いて暮らせる地域づくりの推進
- 他自治体や他地域との積極的な交流
- 自主防災組織を核とした地域防災力の強化
- 安全安心に高い意識を持ったコミュニティ組織の推進
- 必要な時に必要な人に正確な情報が伝わる情報伝達経路の充実
- 高齢者世帯や独居老人等の的確な把握と地域の中で安全安心に暮らせる地域づくりの推進
- 多世代×ごちゃまぜのコミュニティの仕組みづくりによるタウン型CCRC（全世代生涯総活躍のまち）の実現

重要業績評価指標（KPI）

⑮KPI：NO.47
地域を支える人材が育成されている
（評価点）
令和元（2019）年度：56.4
令和６（2024）年度：61.4

重点プロジェクト16　一人ひとりを大切にする

一人ひとりを大切にする

- 幼少期からの道徳教育の充実による他者を認め共生する規範意識の醸成
- 全世代を通じての社会的身分や門地、人種、民族、信条、性別、障がいの有無等に関わらず誰もが自分らしく豊かに暮らせるまちづくりの推進
- 男女共同参画と女性活躍社会の実現
- 郷土愛とボランティア精神の育成
- 移住者を温かく迎える地域づくりの確立
- メディアリテラシー教育による正確な情報判断能力の育成

重要業績評価指標（KPI）

⑯KPI：NO.9
人権が尊重され、一人ひとりが大事にされている
（評価点）
令和元（2019）年度：69.2
令和６（2024）年度：72.2

重点プロジェクト17　課題を抱えるひとの支援

課題を抱えるひとの支援

- 障がいや認知症など、様々な課題を抱える人を正しく理解するための取組みと共生社会の推進
- 障がいのある人自身やその家族による情報発信とその取組みへの支援（障がいのある人の主催イベントなどの開催）
- ひとり親世帯や生活保護世帯に対するきめ細やかな相談体制の整備と課題に応じた適切な対応・課題を抱える人々の生涯学習やスポーツ、芸術に取り組むことができる場の提供
- 課題を抱える人やその家族の精神的・経済的サポートと専門医等との連携強化
- 課題を抱える人の役割づくりと地域内交流や多世代交流の場の整備
- 農福連携や商工福連携など、障がいのある人などの経済的自立に向けた取組みの実践
- 公共施設や公道等のバリアフリー化、ユニバーサルデザインの推進
- 障がい者医療の町独自支援拡充（新規発行年齢の引上げなど）
- 引きこもりやニート等の社会的・経済的自立に向けた家庭・地域・民間企業等と連携した支援

重要業績評価指標（KPI）

⑰KPI：NO.27
障がいがあっても、支障なく社会生活を送ることができる
（評価点）
令和元（2019）年度：59.8
令和６（2024）年度：64.8

重点プロジェクト18　参画と協働、連携によるまちづくり

参画と協働、連携によるまちづくり

- 町民のまちづくりへの参画と外部人材等の有効活用
- 産官学金労言士などの連携による、新しいまちづくりへのチャレンジ
- 民間との連携や民活活力の有効活用
- 芸術文化や教育、子育て支援など尖った施策の強化によるまちのブランド力の向上
- 活力ある小さな拠点形成に向けた取組み推進
- 地域内及び地域間連携の推進による持続可能な地域づくりの推進
- 津山圏域や県北地域など、自治体連携や住民間連携による課題解決（交通・福祉・子育て支援など）と圏域全体の魅力づくり（観光・移住定住など）への取組み
- 同じ目的を共有する自治体間での連携と情報共有、切磋琢磨
- 海外都市等との姉妹連携による、異文化交流の促進

重要業績評価指標(KPI)

⑱KPI：NO.81
まちづくりに参加できている
（評価点）
令和元（2019）年度：58.3
令和６（2024）年度：63.3

重点プロジェクト19　自衛隊との共存共栄

自衛隊との共存共栄

- 自衛隊員の生活支援と利便性の向上
- 自衛隊活動への理解を深める取組み（部隊や施設見学、体験活動など）
- 自衛隊員の地域活動等への参加や隊員との交流（スポーツ教室との連携等）
- 隊員の町内の消費活動の促進
- 隊員の定住化支援（居住地の確保や地域への受入れ促進など）
- 自衛隊×教育の場としての活用（中学生等の体験入隊、FOSジャンボリー大会指導など）
- 駐屯地の存続や部隊編成の拡大に向けた取組みの強化（陳情要望活動、県との連携など）
- 地域の安全を守るための連携の強化
- 演習場の安定使用と諸課題の解決
- 周辺整備と演習場の充実、環境の適正な保全

重要業績評価指標(KPI)

⑲KPI：No.12
災害への備えがあり、安心である
（評価点）
令和元（2019）年度：67.5
令和６（2024）年度：70.5

重点プロジェクト20　持続可能な行財政運営

持続可能な行財政運営

- 地域の稼ぐ力向上による自主財源の確保
- 行財政改革と連動した選択と集中の実施
- 国庫財源や有利な起債（過疎債等）の積極的活用による単独町費の抑制
- 公共施設等の適正管理と長寿命化
- 借地解消に向けた取組みの強化
- 次世代への責任ある健全財政の維持
- 社会情勢や住民ニーズの変化に柔軟に対応した行政運営
- 町民の一番近くで寄り添える職員の育成
- 専門知識や経営感覚のある職員の育成
- 職員のやる気向上と働き方改革の推進による活気ある職場づくり
- 町民まんぞく量の向上を最重要視した行政運営
- 見える、聞ける、わかるまちづくり

重要業績評価指標(KPI)

⑳KPI：No.54
町の財政は健全に運営されている
（評価点）
令和元（2019）年度：64.0
令和６（2024）年度：69.0

奈義町まちづくり総合計画
奈義町まち・ひと・しごと創生総合戦略
概要版

策　定／奈義町
〒708-1392 岡山県勝田郡奈義町豊沢306-1
TEL 0868-36-4111　FAX 0868-36-4009
URL https://town.nagi.okayama.jp
策定月／ 2020年3月

みらいを、掘り起こせ
奈義町